

あごら

MINI

〈43号〉

1980年10月10日発行 ¥100 丁25

今月のなかみ

〈編集担当・あごら東海〉

表紙のことば	再出発して一年	二宮 純子
座談会	リブって何?	〈あごら東海有志〉
報告	運営会議発足へ	2
お願い	会費納入について	6
呼びかけ	東海BOC再出発	6
事務局から	女の集会PART II	7
感想	集会に参加して	7
お知らせ	女のつどい・女の講座	8
	中山紀代子	7

〈女と男〉のミニ雑誌 〈あごらミニ〉 ●何でも言える

●何でも書ける ●小さな 〈ひろば〉=AGORA・〈あごら〉

●あなたの声を待ってます。みんなでつくる 〈あごら〉

秋深し 道をまっすぐに 森に入る(静々)
これは、昨秋、私が弁護士として再出発する時の挨拶状に引用した句である。経済的、精神的自立をめざし、九年の専業主婦生活に別れを告げる私の緊張、不安、意気込みにびったりと感じられたので。
この一年。仕事の責任の重さに苦しむ毎日だった。再就職のための訓練機関もなく、九年のブランクの後、即、厚くましくも一人前の顔をして弁護士の仕事をするのは辛かった。でも稼ぐための苦勞をしてない点での夫への負目が無くなり、一つ一つ仕事をこなすことが自らの力となる喜びは大きい。
夫に対する気持ちも、いろいろ変った。私の都合で住居を選んだので、過半は別居だが、夫不在の気楽さがうれしくてたまらない時もあった。なぜか強まる夫への憎悪が、夫不在の寂しさの裏返しと気付いた時のショックも忘れられない。また、仕事のストレスからか、妙に不安になって、幼児のように夫の側にいたい時もあるかと思えば、私が仕事を始めたのに、従来の役割分担を通そうとする夫の態度に、その人間性すら疑うくらい失望もした。
そして、だんだん、専業主婦の時に意識し

再出発して1年

二宮純子

ていた以上に、私は夫から圧迫され、我慢していたことに気付いてきた。もう我慢したくない! その結果、起こる摩擦。緊張。破局か? そんな悪戦苦闘を聞いて、励ましてくれたのは、〈あごら東海〉の仲間だった。
今、一つの危機を過ぎて、夫の圧迫が軽くなったのがうれしく、私の理想の夫婦助け合いつつ、それが相手を支配する手段とならない自立した男と女の関係に少しずつでも近づけるかという希望すら抱いている。といっても、現状は、夫が嫌な顔をせず食事の準備を手伝うというぐらいの段階だし、相変らず夫は面倒見のよい妻に憧れているので、私の希望も、依然、離婚と背中合せだが。
子どもとの関係も変化した。私が仕事の世界を持ち、子どもだけが私の勲章でなくなつたせいか、接触時間が短くなったのに、前より確かな結びつきが感じられ、子どもに執着する気持ちも少なくなったのは、意外だった。私は、まだ、再就職の森に入つたばかりだ。「専業主婦」家庭内の《雑役夫》だったころはどうだった? こんな呪文を唱えつつ、これからの困難、例えば夫の転勤による長い別居などを乗り切りたいと思う。

『あごら』 23号は

特集
デンマーク会議と
性差別撤廃条約

注目の「国連婦人の十年中間世界婦人会議」は、性差別撤廃条約の署名式をハイライトに、後半期の行動プログラムを決議して終わりました。

世界の女たちは、次の時代へ向けて、また大きな一歩を踏み出しましたが、日本ではまだまだ問題が山積、性差別撤廃条約も、署名はしたものの、批准への道は長くけわしそうです。

〈あごら〉では、20名の会員を民間会議に送り、現地の状況を見てきましたが、それぞれの実感をもとに、次のステップを考えていきたいと願っています。

このテーマに関心のある方は編集会議にふるってご参加ください。日程その他は下記にお問い合わせを。

〒160 東京都新宿区新宿1・9・6

TEL 03・354・3941
〈あごら〉事務局

リブって何？

—私たちのウーマンリブ—

〈あごら東海〉有志



〈あごら東海〉では、今年は少しばかり『あごら』を読んでいこうということになり、例会のスケジュールに、十九号以降の『あごら』の合評会を組み込みました。

六月の例会で、二十号の「女性史におけるウーマンリブ」（水田珠枝）について話し合いを行いました。そこでは○「あごら」はリブか？

○リブにあおられた主婦に問題がある。アメリカの本来のリブはもつと地道だ。

○本当に解放される必要があるのは、性的にできる人たちではなく、右往左往せざるをえない主婦たちだと思う。

○私のリブは男におムツをかえさせることだ。

○男だ女だとあまり意識したくない。私は人として良心に恥じるかどうかだけを考えてきた。リブは同性としてイヤだ。

○男はイコール人間で、女は一度人間として自分を置きかえなければならぬ。そこを考える必要がある。リブに対する嫌悪感は、今まで培われてきた、女性に対する意識からきているのではないか。

○リブは男敵論なのか？

○今の社会体制を作ってきたのは男なのだから、当面は男を敵にまわすことになってもしかたがない。

○女らしさをもつと深く考えて、女性特有の文化を創造してゆくことが必要。○男性の意識を変えるのは、小さいころからの母親の育て方。

○家事・育児から解放されても女の解放につながる。家事・育児を背負っ

ていない人でも、女であるということ、社会から疎外される。

○主婦であることからのがれられない。自分自身の勉強ができるように、男にも育児を受け持ってもらいたい。女にとつては育児のほうが負担だ。

○私はリブ運動に対して第三者でしかない。運動に参加したこともないし、実態の把握が全然ない。ただ現象的に、労働者のスト権が理解されないように、リブが誤解されているのではないか。運動の行くべき先は、体制変革しかないのではないかと思う。

○既成の運動の中に入り込めない、またはみ出した解放運動の中で、女の視点を持つものがリブではないのか。

○私のリブは、自分自身を尊重すること。等々の意見がでました。リブに対する考え方、イメージがでんでんばらばらで、まとまった話し合いにはならなかったのですが、日頃の例会出席者が二十名足らずなのに比べ、この月は三十名近い出席者があり、関心の深さがわかりました。

この後、話し合いに心残りだった会員もあり、「リブって何？」という話し合いを有志で持ちました。〈あごら東海〉はいつも、夫や家庭の主婦的な話題に終始するという批判（？）を耳にしますが、今回も御多分にもれず、ごらんのようなことになりました。

しかしすでに家庭というものをかかえて歩き出している私たちにとって、それを投げ出そうとしない限り、いかに重くないようにかかえるかを考えるのは、常に大きな問題なのです。

リブは嫌いよ

Y ウーマンリブで、私が一番いやだと思うのは、自分たちは差別されているということをものすごく強調するところがあるでしょう。日本の女の人というのは非常に特権的なところにいるんだと思いますよ。例えば韓国や東南アジアの人たちに対して自分たちが差別する側にあるという気持ちが全然ないんじゃないかという、不遜な気がしますよ。

I いやそうではないと思いますよ。差別されているという意識を持った時は、他の差別にも眼がむくんじやないの。

Y メキシコの世界会議で第三世界の女の人に変な反発をかったでしょう。先進国の女の人たちは自分たちを乗り越してゆくという思いを、その人たちが持ったんだと思いますよ。日本でも地道に例えば今度の世界会議に代表で出て行く人や、雇用平等法などをやっている人たちは、きちんとそのへんを押さえていると思いますが、リブの先頭で浮き上っている人たちは自分たちのことばかり考えてるのじゃないの。

I ウーン一度リブのミニコミ等を読んで下さると思いますよ。決して彼女たちはそこへんをネグったところで、自分たちの差別意識を述べたてているわけではない。彼女たちは例えばキーセン観光の問題とか障害者のことなども、政府代表といった人たちより、彼女たちのほうがずっと、自分自身の痛みとして感

じていますよ。

N 私は差別を受けてる人たちが、基本的には自分たちでその差別を訴えてゆくべきだと思ってるの。なにもあらゆる差別を言わないからいけないとは私は思わないねえ。ただ自分への差別はよくわかってる。差別された時の屈辱感はいくつかあるのよ。差別されているかいないかというの、差別されている側に決める権利があると思う。他の差別について言わないからリブはダメだとは思わないなあ。

Y いやダメだというわけじゃないけど私は自分の差別を言いたるのは不遜だと思ってる言わないだけ。

N 私は、それは言うことだけですでに意味があると思うんだけどなあ。

Y 私は人にあれこれ言わないで、自分一人で孤独で闇の時間を持ってる、今の自分を育ててきているのね。私リブがいやなのは声高かにしゃべりたててその先に何かがあるのかと思うのね。凝縮した闇の時間を自分の中に持って、はじめて他人との連帯もできると思う。でもこういうことを言うどリブの人にバンとけられちゃうのね。

I 私自身の経験も含めて、女の人って自分自身を語るということがほとんどなかったのね。たぶんリブ以前の人たちはたいていYさんみたいにやってきたと思うの。自分で差別にしろかかえていることの不合理さにしろ、押さえていくよりしかたがなかったのね。でもそれ以外に、自分一人では考えあぐねる、混沌として考えがまとまらない。でもなにか納得でき

ないという人がいっぱいいたと思うの。そういう人がいわゆるリブ集会などで、初めて話すことができる、これは大きな意味があったと思うの。

Y でも話したあとで、どう自分の自立を想定しているのかしら？

I それはその時は想定などしてないのだからと思う。行く先をみる前にまずことばに出したいということなのよ。

Y 私それが非常に疑問なの。へあごらというところへ、自立したいという人が集まってくる、自分のことをああたこうだといった先がね、どこへ行くのかというのが見たい、聞きたいのよ。

I 先よりまず、自分がかかえてるのもやを話すことによつて、とにかく自分自身がつかかえていく問題がわかってくるんじゃないかしら。

N 私に障害者の人から、もっと自分の差別を考えてくれといわれるのはわかるけどYさんからそれを言われるとね(笑)

Y 私はね、運動する人たちが、自分たちも差別する側にいるんじゃないかという意識を持っていなければいけないと思うの。リブにはそれが感じられないのは、運動にとつてマイナスイメージのね。うちの亭主なんかは、ウーマンリブなんてのはエゴイストの集まりだつていうのね。

N 私なんか、男からエゴイストだつて言われたつて絶対認めないわ。女の人に言われるのは別だ。

I 私もどうも女の人とは容認しちゃうところがあるの。今は女はケンカする時じゃないと思うな。どんな階層の女とも。N ケンカはしなくても、批判はしても

いいよね。

I でも男に向ける批判と女に向ける批判はおのずから違う、それなりの心配りがあったりして(笑)

女の敵は女？

N Tさんはなにか、特に差別は感じられないとか。

T そうね、私は個人的には抑圧はないわよ。夫との関係も私のほうが一方的に自分を押さえるなんてことは、考えられないわね。ただね、男社会からの女への抑圧というのは感じるわね、だからこういうのも出てくるんだけど。

女が何かやる時というのは、必ず女が立ちはだかつてじやまするのね。第一、姑と嫁のことだつて、姑があれば女かしらというくらい男の立場に立つて発言しますね。他の場合でも必ず女が何かしやうとすると女のほうが見えちゃいますよ。I 表面的にはそう見えるかもしれないけど、むしろ男が巧妙に女の対立をあおって利してるように思いますね。

O 私は舅姑と一諸に住んでるんだけどそういう対立は男がいるから出てくると思いますね。初めは私も姑と女同士で足を引っぱりあつてると思ってたわけ、でも姑自身家の中で代々押さえてられてきているということが、だんだん見えてきたらね、私が外へ出たりすることも姑が一番よくわかってくれるようになってきたの。

この間の選挙の時男が女には選挙権な

んかいらないっていいだしたの、今までの姑ならそんな時だまつたと思うのが私より先に、いやそうじゃないって言いだして。私も姑が何かしたいって言う時はお互いそれとなしに協力し合えるようになったのね。

T 個人的にはそういう例もあるかもしれないけど、一般的にみればまだまだよ。

O 選挙で思い出したんだけど、私選挙の手伝いに行ったのよ。事務所へ行くといっぱい女の人がいるけどその人たちが何をやってるかついていうと、お茶を入れたり御飯の支度なのよ。私が組織から行って他の仕事をしてるとお茶を入れてもらう立場になるわけ。そうするとやっぱり若い人とか風当りはあるのよ。でも本当はその人たちだつてお茶くみばかりやりたくないのよ、他の仕事もやりたいわけ。そういった男の組織の中にいる女全体の立場を見ていかないと、いけないんだと思うわ。

T それはわかるのよ。でもね、私が一度PTAの会長をやった時にね、男の会長だつたら絶対言わないようなことを、女の役員がすげずけと言ってくるのよ。男の人だつたらなんでもなくて通ってきたような議題が、細かい事まですこいイビリですよ。外に出て何かをやり始める

出席者

F (30代)
I (30代)
K (40代)
N (30代)
O (30代)
S (30代)
T (50代)
Y (30代)

と女からの抗撃にさらされなければなら
ないのよ。

I でもそれはよかったんじゃないです
か。会長が男だったら何も言えなかった
人たちがそれだけ主体的になれて。

T それはそうね、次に男の会長になっ
た時、去年は何んでも言えたのに、とい
うのがあとから出てきたわ。

でも男をつくっていきるのは女でしょう。
無自覚な女がつくった男たちが、女の上
に乗っかって、抑圧に対してまったく無
自覚のままでいれるんですよ。自分は女
を幸せにしていると思ってますよ。

N そういう無自覚なのはけつとばして
やりたい(笑)

夫にどう対してるの？

T 無自覚な男をけつとばしてやることに
よって痛みがわかってくるということか
N いや変らないよ、変らないからけと
ばすしかないということ。私もこの間う
ち、家で夫とやりあつてガツクリきてる
のよ。

T わからないなあ、うちなんかきつち
り話をすれば私がイヤだということは、
絶対にならないわよ。

N Tさんは女さえ自覚すればというこ
とですか。
T 自覚じゃなくても意志強固につらぬ
けば？

N そうはいかないわよねえ、たぶんそ
うなったら離婚になっちゃうところが多
いんじゃないかなあ。

T それは彼のほうがきかないからなの
？ きっかけをみてますか。

N 話をしてみてもね、すぐ話がくい違
っちゃうのよね。でもYさんのところな
んかは、人間対人間で話し合いができる
っていつてたでしょうこの間。

Y そう、私は女だからどうかは一度
もいったことはない。ただむこうが「オ
イ」って呼びかけたりした時に、あなた
は対等な人間に対してオイって呼びかけ
るのかっていうと、しないって言うわね
じゃあ、なぜ私にはするのかわかってい
うのよ。私は絶対に権威を認めない事
を徹底してるのね。父親の権威も認めな
かったし、夫の権威も認めないの。でも
十年間かかったわね。女だからというこ
とを前に出すよりも、人としてこうだつ
ていったほうがいいように思うの、女だ
つていうと彼も感情的に反発するところ
があるけどもね。これで十年やってきて
今はお互に相手を思いやれるし、特に
意識しないでもなんでも対等にできるの
だから入り方はいろいろあるんじゃない
かしら。うちの亭主というのはウーマン
リブはすごく嫌いなね、でも実際の家
の中といふのは、リブ運動やってる人た
ちよりもずっと平等だと思ふ。今はお互
い思いやって、むこうが疲れてると思
えば、言いたいこともちよつとひかえる
ということもできるようになったの。そ
ういうのができなかった時期というの
もあるわけ。顔を見ても腹が立つとかね。
私はどうしてもわかつてくれなきや別れ

てもいいと思つてたし、彼のほうも私は
いざとなつたら出てくだろうと思つて
からね、よけい関係を大事にしたの。そ
ういうのをめけたから今があるのね。だ
からある時期やっぱりがんばるってこと
も必要んじゃないかしら。

N でもそれだけのことを普通の女の
人に要求できるのかしらねえ、そこまで
がんばるのが普通とはよくいえなわね。
I Fさんはまだ会に顔を出して日が浅
いけどいかがですか。

F 私はまだよくわからないから。
N でも「あこら」に出ていらつしやる
からには、何か差別を感じてみえるわけ
でしょう。

F そうよ、それはすごく感じてますよ、
私は本当に家庭だけの主婦ですから夫か
らの差別だけですくてね。本当に不自由
ですよね。夫は男としては普通の男です
けど、でも本当に不自由なんですよ。ね
もうイヤになつちやつた。

N ほんとわかる。うちなんかね、例え
ば食事の時御飯くらいよそつて頼む
のね。これも何年もかかつて言えるよう
になつたんだけど、そうすると夫は、ア
イツはオレにやらせないと気がすまない
のか、そんな程度の理解しかないのね。

Y 私は、ちよつと悪いけど御飯よそつ
て、悪いわね、悪いわねを連発して、パ
ッパツて言っちゃうのよね。

N 私もやるわよ。で近ごろいかに素直
にやつてくれるな、わかつてくれたのか
なあって思うの、怒るからしかたなしに
やつてるって言うのよね。ガツクリきち
やうわよ。それでうちの女房はどういう

ミミッチイやつか、オレは本当に理解の
ある亭主だって自分では思つてのよ。

Y そう、本当に砂の上に家を作るよう
なもので、一言でガラガラとくずれて、
また初めつからやり直しのよね。

T もつと抵抗したらどうなの、子ども
と自分のことだけやって亭主のことはい
つさいしないとかね。

N やつたわよ、口きかないとか、御飯
も別のテーブルで食べるとか。でも抵抗
しても、あぐくのはての話し合いでね、
なんてお前はミミッチイヤツだになるわけ。
S でも体の悪い状態はどちらもなるじ
やない。そうすれば人間対人間でいたわ
りあうとか……。

Y 丈夫な人というのは弱い人のことは
想像がつかないのよね、かえって腹が立
つわけね、そういうのはわかる。

N 朝なんか早く起きてほしいと言つて
も、いろいろ理屈をつけるわけ、お前
の方が早く寝たとか。話していると、オレ
は仕間働いてる、お前は朝早く起きて
も仕間しておればいって、今までは言
えたのよね。今は私も仕事をしているか
らそうはいえないけど、それでもなんだ
かんだという。でもうちの亭主は世の中
ではそう暴君とはいえないですよ。近所
の人からは「いいご主人ですわね」って
いわれますね。一回でも御飯をつけるよ
うな人は、いい亭主なんですよ。今の世
の中では。

F うちも同じね、別居したいと思うこ
とあるのね。
T 別居したらどうですか。

F いやあできないですよ。生活する能

力がないから。

T 体の具合が悪いからって、実家へ帰って見たら、一週間もいなければ家の中メチャクチャになるでしょう。少しはありがたみがわかるんじゃないの。

N いや今は男一人で暮らしたって、そうはメチャクチャになりませんよ。でもやっぱり亭主は仲直りしたくて、キゲンをとるよね。茶わん洗ったりして。でも、理屈では絶対負けたとは言わないしね。

T それは形の上ではあやまらなくても、体ではわかってるしあやまってるのよ。N でもそれであやまってるって認めて次に進むと、前にまた何回でも戻るのよ。

Y でも戻る度合いが、だんだん少なくなるんじゃないかって気がしますね、原点までは戻りませんよ。

S そうね、三步進んで二歩戻るという感じで、長くみれば少しずつ前に歩いているのよ。

N みんなそういつて希望を持たしてくるけど(笑)まだひどい人はいっぱいいるのよね、自分が一生懸命やっててもこれだけしかできないのに、みんなに、立ち上れ！って言いにくいというか、そんな気がするわ。

性の解放は

K 私は二十一で見合い結婚をしましてね、相手をよく見なくてね結婚してからいろいろわかってきたの。主人も悪い人じゃなくて、自分が好きなことやっていれば、人の事は口出ししないの。ただ商

売してましたでしょう。ほんと私がやってたのですが、社会通念でね、出すぎてはいけない、でも仕事はしなけりやいけなくて、本当に苦しかったですよ。夫と別れて二三年くらいやつと自由で気持ち軽くなりました。

N でも彼女が、私にそんな夫なら別れろというかと思うと、別れてはダメ、仲良くしなさいって言うのね。

K それは努力しなければいけない、というのを言うのよ。でも努力をして、やるだけのことをしても、先が見えなければフン切りをつけないけりや。でも五十くらいまではガンバラなけりや。まず経済的に力をつけることですよ。

N そっちの方は、今着々と準備中ではないんだけど。この間ぶつかった時にね。そんなに言うなら別れるかって彼がいってわけ。私はそれならいいわよっていったのよ。そしたら、ちよつと頭がおかしくなつたんじゃないかとか、あげくは、いったいだれがお前にそういうことを教えたんだって。前はもつと素直で可愛い女だったのについていうのね。(あごら)

つてもうちよつとで出そうだったんだけど、言わなかったのね、頭の中でそう思ったのよ。でも誰がそれを教えたのかなんて、すこく侮辱だよええ。

S うちの夫は本当はNさんのところよりズルイのかも知れない。私が別れたら困ることをよく知ってるのよね。だから気をつけて、大事な人だからってことを言ったり、まあいろいろできることはするわけよね。寝込まれたりしたら困るから。その日疲れているんだつたら、彼は

一食ぐらいはお茶漬け食べてもすましてくれるのよ。帰ってきたの知らないで朝まで寝てることあるんだけど、なんか朝になつてあつて悪いなあと思つちゃうのよね。彼は何も言わないけど。

T でもそういうのは、それだけでもうあなたが解放されているわけですよ。

K 私ね、女の解放を考えるときは、経済的な自立やなんかは当然ですが、性に対して自立しているということも大切だと思ふんですよ。離婚したりすると、その辺がとつても大変ですね。性的に解放されていないけど、性に対する気持についてのもありますからね。私もそのギャップに悩んだこと正直いつてありますからね。

T それは相手がいないってことですか。K それもですが、あるってこともまた悩みになりますよ、今の社会では。でも「性の深層」なんか読んで、救われましたね、すこくピッタリきました。自分のセクシュアリティに正直にね、はつきり物をいうようにしていくつていうのね。

N 私もあれは面白かつたわ。なんかこっぴどいという気がするのね。男がグチャグチャいっても、男なんかいらんないぞ。子どもを産むためには別としてね。性的満足には必ずしも男はいらないつていえたんなんか痛快だろうなあつて。

T どうしてそんなことが痛快なのかしら？

N 私は抑圧されているから、そう思うね。K 性の抑圧からね、まったく自由になるとね、人間のいろんなものが見えてくるんじゃないかしら。そこをね、眼をそ

むけないで考えてみないと。

N いや(あごら)では眼をそむけてないのよ。Kさんも恥かしそうに言わなくても、ちよつと自慢しますがぐらいい言つてさ(笑)

Y リブには結婚することがすでに、性差別だという考えがあるそうだけど、でも男と女という性があるのだし、結婚すること自体が悪いとは思わないのね。私は娘時代父親に養われてる、という思いが強かつたから、結婚して初めて対等な関係になった、ここで引き下るもんかつて思つたのよ。

S 私は反対なの。独身のころは自由に生活していたのよ。それが結婚してどうしてこんなに不自由なんだろうかって思つて、とにかくこれは嫌だこれをなんとかしなけりやと思つて夫に向かつていったのよ。

F 私は結婚の選び方を間違えちゃつたのかな。この間旅行したいつて言つたらオレの金で勝手なことをするなつて怒るのよね、養つてるといふ意識がすこく強いね。何かあると出てくる。

T 私の家事している分の給料ちようだつて言つてみたら、あなた自身の貯金をどつさり作らなけりやね。

F アルバイトしたお金だけは、自分の名前で貯金してるんだだけね。

N ねえこれでもリブの話なのかしらね。いいんじゃないの。私たちは今の状態を考えないことには、一歩も先へ進めないんだから。男とのかかわりをどうもつかということは、ウーマンリブ全体にとつても大きい問題なんだから。

新しい「あごら」を目指して

運営会議発足へ

この指とまれ方式で、自然に大きくなった「あごら」も、会員数七百五十名を超え、もう少し組織らしい組織にする必要があるのではないかと声があがり、昨年十二月以来、有志たちが「あごら臨時運営委員会」をつくり、組織論を検討してきました。毎月一回、休日返上、手

弁当で熱心な討論を重ねましたが、九月十三、四の両日、会員に広くよびかけて「あごらを考える会」を開催、席上出された意見を再び委員会に持ち帰って、次のような結論に達しました。

① 「あごら」は、「さくのないひろば」ではあるが、一つの原則はある。それをもっと明確に、明文化しよう。

② 特定の少数の人に集中していた責任を分散し、「あごら」の維持発展のための精神的ならびに経済的責任をわち合おう。

③ そのため、運営会議をつくろう。

*

これに対応し、①の「原則」としては次のようなことを明文化することにした。

●「あごら」はフェミニズムの運動である。フェミニズムとは、自他、男女にかかわらず、人権の尊重が基本であり、人権を侵害するあらゆるもの（特に差別・戦争・公害）に反対する。

●「あごら」の運動は、次のような特徴を持つ。

- 1 イデオロギーを先行させず、現実根ざした運動をする。
- 2 個人の意識変革を中心に、着実に持続的な運動をする。
- 3 ゆるやかな連帯、ゆるやかな方向性。
- 4 「人はすべて可能性を持つ」を信条に、女性の可能性の開花に力をつくし、それを社会活動と結びつける。
- 5 世界の、日本の、運動の中で、特に情報部門を専門的に受けもつ。
- 6 地域に密着した運動を行なう。
- 7 会員は、自分の情況と、割き得る時間や力に応じて活動に参加する。「ベッドの中でもできる運動」が基本。
- 8 どの政党、どの企業、どの団体とも直接的な関係を持たず、自主独立を続ける。
- 9 資金は、会費および基金を基本とする。
- 10 どの部門にも「長」は置かないが、責任者は明確にする。

③に対応して、当面、下記の人々で「運営会議」を構成し、最終責任をわち合いうことにしました。

・大八木ヨシエ・小島サカエ・小島豊子
・後藤 多見・齊藤 千代・関 和子
・高橋すみ・谷内真理子・玉置 優子
・塚崎美和子・長谷川知子・福井 浅子
・福田 光子・三船 照子・山岸 汐子
・山口 里子・山口のり子・山下智恵子

これにより、従来の「臨時運営委員会」は解散しました。なお、今後の事業計画、予算、役割分担等は、新しい「運営会議」で企画、立案して、ひろく皆様におはかりしたいと思えます。ご意見、ご希望は事務局まで、どしどしお申し出ください。

東海BOC再出発

自分の持つ可能性を何とか自立へつなきたいと、「あごら東海」の有志で始めた「東海BOC」機会を作っては、知り合いを尋ねて、BOCの説明をし、仕事があったらよろしく、と声をかけていたのが、一年以上たった頃、覚えていてこんな仕事はどうかと声がかかるときは、本当にうれしい。だんだんそういうことも増えてきた。しかし、いつも順調に運営されていたわけでもないし、コンスタントに仕事があったわけでもない。

一度、不備な点を出しあって、整理をし始めてから数ヶ月、やっと、一応の形式を整えました。

会費納入についてお願い

あごらミニを43号。最近では拠点での交代の編集もすっかり板につき、他のグループにはない、ユニークなミニコミとして、雑誌などとりあげられることもしばしばです。また「あごら」23号の準備も着々と進み、11月には皆様のお手元にお送りいたします。

ついでに、本年度の会費を納入していない方、今回、振替用紙を同封します。10月中に会費を納めて下さい。10月からの小包の料金値上げなど諸物価の高騰で、「あごら」の台所は決して楽ではありません。よろしく願います。

日々の運営は、発足時のメンバー若干名が、運営委員会方式で行ないます。能力を預託したり仕事をする会友には、「あごら」の会員または主旨に賛同する人なら誰でもなれます。くわしくお知りになりたい方、入会したい方は、お気軽に左記までおたずねください。

秋。「東海BOC」可能性教室の第一弾!!
「世界の女と手をつなぐため、英会話を学んでみませんか」という講座を始めました。
今後とも皆さんの幅広いご協力をお願いいたします。

瀬戸市東吉田町42の13

桜井京子

TEL 0561-84-3024

'80女の大集会PART II

開催

三月から準備して6・14の集会PART I、7・18性差別撤廃条約オリエンテーションを開いた'80年女の集会実行委員会は、第三弾として、10月4日、午後1時、女の集会PART IIを開催した。秋晴れ土曜の午後、仕事を終えた人、子ども連れの人、高校生、大学生、およそ八五〇名の女たちが、池袋の豊島公会堂に集まった。

第一部は、私たちの見たコペン報告。『あごら』からの三名を含めた六名の女たちが、フォーラムで自分たちの訴えた買春観光のこと、第三世界の女性たちとの連帯、マスコミに女性をふやすためになどの報告をした。

第二部は、性差別撤廃条約完全実施をめざして、自分たちはこのように運動していくという、各リブグループのアピール。寸劇、スライド、と趣向をこらし、仕事差別、賃金差別、男女雇用平等法の問題、国籍法の男女平等への推進、教科書の中の性差別等々をわかりやすく説明



し、自分たちの身近な問題としてとらえ行動していこうと観客へ呼びかけた。『あごら』からは河上友子さんが『あごら23号』のテーマを紹介し、あわせて情報活動と可能性の開花に力をいれている『あごら』の運動を説明した。

5時からデモ。子ども連れで、ゆっくりしたペースで池袋の街を進む。「性差別撤廃条約完全批准を！」「女に仕事を、男に家事を！」など、ユニークなシユプレヒコールで道行く人々の注目をあびた。そして6時、女たちは、それぞれの立場での運動の推進と連帯を誓い合つて、すっかり日の暮れた公園をあとにした。

女の集会に参加して

中山紀代子

「あごらミニ」の前号(四二号)とともに送られてきた「'80年女の大集会」のビラを見て参加しました。『あごら』の本の販売もかねての参加で、始めと終わりの部分が抜けて、少し気がひけますが、素朴な感想を述べさせていただきます。全般的な感じは、女は何とまあ相変らず困難な状況の中にあるのだろう。否、以前に増して女に対する攻撃は巧妙に、しかし厳しくなっているということでした。女子労働者は五四年は三二万人増えました。パート労働者は三六万人の増加です。と言うことは、常用雇用労働者が四万人も減少したことを意味しています。

さて、何回か会を重ねた実行委には『あごら』事務局の者が参加していたが、これから運動として進めていくために、いっしょに考え、行動する人を広く募集しています。事務局までご連絡下さい。



(斉藤千代さんのお話より) また、ボルノ・グラフィは、これでもか、これでもかと、女は男のセックスの玩具であるという神話を男にうえつけようとしています。(これはスライドで上映されました)

しかし、こうした女の困難な状況を告発する手だが、何とユーモアと余裕を持つているのだろうかというのが二つ目の驚きでした。女は真面目で、ユーモアは男の専売特許のように思い込まれていたことを知るよい機会となりました。

ユーモアは、自信と誇りがあるところに出てくるものでしょうか。それにしても熱演された人たちは、もつと多くの人に見てほしかったことでした。

コペンの報告をされた山口のり子さん大石まゆみさん、斉藤千代さん。『あごら』の呼びかけをされた河上友子さん、ご苦勞様でした。

天皇制・女 —天皇「罪位」50年を問う—

編集 婦人民主クラブ

天皇訪米の意味するもの……針生 一郎
教育と天皇制……村田 栄一
わたしの内なる天皇制……もろさわようこ
天皇制差別の底辺から……宮沢志津子
あなたの中に天皇はいないか……朴 寿 南

350円 円120円

女の老い

編集 婦人民主クラブ

高齢化社会がやってくる。私たちがこの問題をどう受けとめるか。年金を現行の積立方式から賦課方式に切りかえさせよう。五万円を獲得しよう。
男社会の中で女としての生きがいを探ることから出発した第一集です。

150円 円140円

私たちをとりまく公害

—婦人民主クラブ活動年表—

編集 婦人民主クラブ公害部

婦人民主クラブは1946年廃墟の中に生れ同時に婦人民主新聞を33年間継続して刊行しています。その中から私たちの反公害運動や記事を年表としてまとめました。

300円 円140円

婦人民主クラブ

東京都渋谷区神宮前 3-31-18 ☎ (402) 3244

振替東京 8-196455

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
10月14日(火)	18:20~20:20	婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃条約の総学習	毎週火曜全4回 講師 緒方貞子、山野和子、大羽綾子、鍛冶千鶴子、和田典子、市川房枝 〈婦人会館婦人問題講座〉 社の部は10月16日開始(14:00~16:00) 毎週木曜全4回 いずれも4回3,000円 申し込みは婦人会館へ電話で。	婦人会館	03-370-0238
15日(水)	18:30~21:00	第三世界の女と暮らし	講師 綿貫礼子、金子はるひくアジアの女たちの会	渋谷勤労福祉会館	
16日(木)	12:00~13:30	女のための合気道 指導 楯守キニ、エリスアムダー	(毎週木曜日、会費2,000円 連絡先 995-9489)	楯守道場(練馬区桜台)	
17日(金)	13:30~	市民としての女性	津田塾大学公開授業 体と性について 講師 森冬美(毎週金曜日)	津田塾大学特別教室	
18日(土)	13:30~16:30	性差別撤廃条約をめぐる	一条約の解説と問題点について— 等原郁子 — 国連婦人の10年の運動と条約批准のとりくみについて— 田中寿美子 参加費 一般300円、会員200円 〈婦人問題懇話会〉(連絡先 0421-21-7660)	南青山会館	03-406-1365
19:30~		あごら武蔵野・例会		かわら版事務所	
14:00~16:00		婦人民主クラブ講座 源氏物語	講師 村山リウ (テキストあり)	大阪市立婦人会館	
18:00~20:00		同 万葉集 巻13(26)	講師 益田勝実 (テキストあり)	東京・千駄ヶ谷区民会館	
19:00~		女のパーティ (ディスカバーパーティ) 〈ラベンダーギャングス〉		すべーす J O R A	03-203-6022
19日(日)	13:30~	あごら京都・例会	講演会反省会とソ連旅行の報告	シャンバラ	
14:00~17:00		あごら浦和・例会	今後の拠点活動について	国井宅	
23日(水)	10:00~12:30	今、母であること— 零才児保育を考える—	〈あごら東海・例会〉		
24日(金)	13:30~	市民としての女性	津田塾大学公開授業 体と性について 対談 末永蒼生・星川まり子	津田塾大学特別教室	
19:00~		これからの運動を考える	〈あごら北東京・例会〉	婦人協同法律事務所	
25日(土)	18:30~21:00	あごら九州・例会		福岡市婦人会館	092-712-2662
29日(水)	11:00~20:00	女のでんらん会 「つくられる女からつくる女へ」 PART II (11月2日まで)		スペースアウラ (丸の内線新宿御苑前下車)	03-341-9364
30日(木)	18:00~21:00	結婚の意味を問う継続討論		豊島振興会館	
11月9日(日)	14:00~18:00	あごら九州・例会		福岡市婦人会館	
11日(火)	18:30~	かつて女は戦争に協力した いま、女が戦争に反対するために— 女性解放運動と戦争—	〈行動をおこす女たちの会・11月定例会〉 連絡先 ジョキ 03-357-9565 参加費300円	東京都勤労福祉会館	
13日(木)	18:30~21:00	あごら札幌・例会		ノア	011-511-1377

各地のあごら連絡先

あごら旭川	旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子 ☎ 0166 65 6237 ㊦ 078 11
あごら札幌	札幌市中央区南25西12エー1 藻岩503 高橋芳恵 ☎ 011 563 6917 ㊦ 064
あごら浦和	埼玉県浦和市南浦和2-19-8 国井マツ江 ☎ 0488 87 3680 ㊦ 336
あごら北東京	豊島区東池袋1-45-11(サンシャインシティ) 婦人協同法律事務所 内村由美子 ☎ 985 3308 ㊦ 170
あごら武蔵野	小平市小川町1の7 63の8 6 丹羽雅代 ☎ 0423 43 6749 ㊦ 187
あごら京王	調布市仙川町3-12-32 福井浅子 ☎ 03 308 7871 ㊦ 182
あごら神奈川	川崎市多摩区生田4 634 沼田千恵子 ☎ 044 933 9079 ㊦ 214
あごら東海	愛知県愛知郡東郷町和合ヶ丘1-12-9 伊藤汎美 ☎ 05613 9 2386 ㊦ 470 01
あごら京都	京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子 ☎ 075 791 4623 ㊦ 606
あごら大阪	吹田市出口町30-20 703 北垣由民子 ☎ 06 387 0916 ㊦ 564
あごら九州	福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子 ☎ 092 521 7624 ㊦ 810

〔編集後記〕

名古屋を中心とするこの東海地方では、今デ
ンマーク報告会がさかんに行われています。〈あ
ごら東海〉会員の参加者も毎日のように飛び歩き、
タレントなみのスケジュールです。今年参加でき
なかつた会員も、五年後にはなんとか行こうと、
まずは英語の学習と、積立貯金をいつせいに始め
ています。

(伊藤)